



ARAUCO®

2026 年 8 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

7 月は低気圧が発達する日が例年より多く、サンチアゴ市内でも 1 日に 100 ミリ近い雨量の日もあり、道路は川のように冠水していました。またチリ北部のアリカ地方では平年の年より 10 倍近い雨量となり、非常事態宣言が発令された週もありました。

8 月後半まではしばらく雨季が続くので、今年は異常気象に注意が必要です。

チリ銅価格は高値安定をしており、6.1-6.2 ドル台で先月から落ち着いています。

為替市場はドルに対して 920 ペソから 950 ペソで、ややペソ安ドル高傾向です。

カスト大統領に対しては国民の不支持が 60%以上に上昇しており、主にエネルギー高を含めた物価上昇に対する政策が遅れており、国民の不満が増加しています。

韓国のスーパースターBTS がサンチアゴ国立競技場で、10 月 14-16 日にコンサートを開催することが決まり、3 日間で約 14 万人の規模になる見込みです。

2. 世界市況

中近東市場はホルムズ海峡の運航が不透明ですが、アラウコは 8 月末に CMPC と共同でバルク配船を検討しています。今後の米国とイラン情勢によりますが、中近東向けバルク配船が実現すれば、今年初めてのの中近東市場へチリ材の販売となります。

韓国市場は中国向け輸出が好調で、8 月配船は前月より 15%数量が増えて、価格も上昇しました。中国市場は不動産や消費分野は低迷していますが、米国向け輸出は好調で、梱包資材の需要は強い市況です。チリ KD 製材のメイン市場である家具、玩具、DIY 向け市場の需要は引き続き低迷しており販売数量は回復していません。

アラウコは米国向け Chep レンタルパレット部材を長年メキシコ経由で米国市場へ供給をしてきましたが、7 月に米国業者から直接チリからもパレット部材を購入したい意向があり、アラウコは追加数量として KD 材（心材）の生産を始めました。

8 月の生産数量は当初予定より約 15%不足になり、収益率の低い国より販売数量の制限を実施しました。

3. 日本市場

a) 配船スケジュール

アラウコ 3 月コンテナ配船（1 番船）は 5 月中旬から 6 月までに入荷して、港湾でのトラブルもなく順調にコンテナ積み下ろしを終えました。

5 月コンテナ配船（2 番船）は予定通り 5 月中旬から 6 月上旬までに現地を出港しましたので、日本各港へは 7 月中旬から 8 月前半にかけて入港中です。

7 月配船（3 番船）は 7 月中旬から 3 週間で現地出港を予定していましたが、現地大雨の影響で生産が全般的に遅れており、8 月前半まで現地出港に時間がかかりそうです。日本入港は 9 月中旬から 10 月下旬まで予定しています。

9 月配船（4 番船）は 9 月中旬から 10 月上旬までに現地を出港して、日本入港は 11 月下旬から 12 月中旬あたりで、年内到着が最終の配船スケジュールになる予定です。

今年の最終配船スケジュールは 11 月配船（5 番船）で、現地を 11 月下旬から 12 月前半に出港して、日本へは来年 2027 年 1 月下旬から 2 月前半にかけて入港します。

来年 2027 年はコンテナ配船を今年の 5 回から 8 回に増やして、配船の間隔を 70 日間から来年は 40-50 日間に短くすることで先月から現地と検討をしてきました。

現地と最終確認が出来ましたので、来年のコンテナ配船より品質保証、在庫管理、各港でのコンテナ積み下ろし本数を減らすことによる効率化で、来年は 1 配船当たりの数量は現行より約 35%減少する見込みです。

b) 梱包市況

梱包需要について 7 月以降は回復傾向にあり、5-6 月より需要は改善しています。

停滞していた輸出梱包案件が動き出した港も出ておりますが、個別案件が多く、全般に梱包需要の案件が増えている市況ではまだありません。

米国とイラン情勢も日々戦況が変化しており、世界経済に与える影響は続いています。チリ国内のエネルギー価格は下がる傾向にありますが、ガソリン価格はまだ 220 円/L 近くしており、毎月のインフレ率は上昇傾向にあります。

コンテナ運賃は米国とイラン情勢による影響もありますが、太平洋航路は米国と中国の貿易が増えており、船運賃は強く推移しています。

チリ各社は 6-7 月（3 番船）のコンテナ配船でコスト上昇分として 3-4%値上げを実施しました。また 8-9 月（4 番船）のコンテナ配船でも再度の値上げをしています。

為替水準も 160 円を超える円安ドル高が定着をしており、輸入業者のコストは半年で為替だけでも 5%以上のコスト増になっています。

各社は 3 番船が入荷する 10 月以降に 4 番船のコスト上昇分も含めて、当初の 2000 円値上げから、最低でも 3000 円へ製材価格を値上げする市況になりそうです。

以 上